
平成29年度 福祉のまちづくりモデル地区推進部会 議事録

平成29年8月29日(火) 10:00～ 11:30 エコ計画浦和ビル3階西会議室

出席者 : 若林部会長、上松委員、小川委員、木次委員、鯨井委員、國松委員、鈴木委員、
町田委員

関係団体職員: 大橋、神宮(さいたま市社会福祉協議会)、船戸・田中(さいたま市社会福祉事業団)
宮澤、猪瀬、木曾 (特定非営利活動法人ライフアシスト Familish)

事務局 : 細沼、石川、石山、増田(福祉総務課)

※敬称略

【次第】 1 開会

(1)福祉のまちづくりモデル地区推進部会について

2 議事

(1)平成29年度モデル地区推進事業について

(2)その他

3 閉会

【内容】

1 開会

若林部会長 挨拶(省略)

(1)福祉のまちづくりモデル地区推進部会について

事務局 参考資料1～2の説明(省略)

2 議事

(1)平成29年度モデル地区推進事業について

事務局 資料1～2の説明(省略)

若林部会長 事務局の説明について何かご意見等がありますか。

若林部会長 (「視覚」、「聴覚」、「知的」、「高齢」、「車いす」の5つの特性の中から)2つ選択するというの
は昨年度もそうでしたか。

事務局 はい。

若林部会長 どの組み合わせが多いかなど、特徴はありますか。

私の印象では、「車いす」が比較的多くの方が来ていたと思いますが。多かったり、少なかつ
たりそういったことはありますか。

事務局 昨年は、1つの特性につき15名程度で均等に分けてました。今回も、98名ですので、20名程
度で分けさせていただこうと考えております。

- 若林部会長 昨年度、また、これまでやられて、お気づきの点とかあったらいかがでしょうか。
- 宮澤 (Familish) いつも我々の、こういうことをやりたいというのを聞いていただいて、やらせていただいているので、今回もいろいろとご要望させていただくと思いますが、可能な限り自由にやらせていただければありがたいと思います。
- 1度、現地に伺って先生方とも事前の打ち合わせをさせていただきたいと思います。
- 國松委員 この取り組みの記録をとるためにカメラを向けると、記念写真になってしまっているのではなくて、どこに気づいていくのかというところに気持ち集中できるように、周りが気を配ったほうがいい感じがします。
- 町田委員 去年、聴覚障害者の生活について話をさせていただきました。また、手話について子どもたちに教えさせていただきました。
- 去年は小学4年生だったので、積極性があまり感じられない部分があったのですが、今年度は、小学6年生ということで、いろんな体験など興味を持ってくれるのではないかと楽しんでしています。
- 聴覚障害は、見て理解してもらえない障害ではないので、どういう風に理解してもらえるか、どんな体験をしてもらえるか気がかりな点があるので、考えていきたいと思います。
- 以前、聴覚障害者の生活についてお話させていただいたのですが、子どもたちの反応があまりよくなかったのでその点が難しいなと思っているのですが、子どもたちにわかりやすく説明するために工夫が必要だと思っています。
- 若林部会長 外見上わからない内部障害などありますが、今、障害等を知らせる様々なマークがあると思います。いろいろなマークがあることを説明できればいいなと思っています。
- 鈴木委員 (「視覚」、「聴覚」、「知的」、「高齢」、「車いす」の5つの特性の中から) 選択するときの組み合わせについて学校との調整はどのようにされていますか。
- 事務局 それぞれの人数については、学校と協議していますが、グループ分けについては学校に任せております。
- 鈴木委員 今までの経験を生かして、また、部会での意見を反映できれば、更にいいかなと思います。
- 鯨井委員 グループの分け方について、クラスでグループを作ってその中で分けたのか、個人的にどこに行きたいかというので分けたのか、それによって、違いがあると思います。同じクラスの中にいろいろなところに行った方がいれば、クラスに戻った時にいろいろな話ができると思います。できたら、クラスでバラバラになるようにできればいいと思います。次回から提案してもいいのかなと思います。

- 町田委員 45分ずつ2回学習するというのですが、2回目の学習の際は別のグループの子どもたちが学習するというのですか。
- 事務局 1つのグループが2つの学習をすることになっておりますので、1回目に学んだ障害とは別の障害について学びます。
- 木次委員 グループごとにまとまって別の障害の特性について学ぶのか、グループの中でさらに別れて別のグループで学ぶのか、どちらでしょうか。
- 事務局 分け方については、学校によって違っていたと思います。
- 木次委員 同じクラスの中でもいろいろな経験をしたほうが良いと思うので、バラバラにするなど工夫があってもいいのではないかとご指摘かと思えます。
- 若林部会長 学校側にも、この要望について伝えていただきたい。なるべく、いろいろなところに参加して、いろいろな体験をしてもらうのが望ましい。
- 國松委員 講師で伝える側の話ですが、45分の中でやり切ることになっているが、当事者に特化した話をするのか。例えば視覚障害の方が来て話をする時に、その人が全盲の人なら全盲のことについて特化して話をするのか、色盲など視覚障害について幅広く話をさせていただけるのか、どちらでしょうか。
- 小川委員 学校の先生からは、先天性の全盲と中途失明と、どうやって訓練してきたのか、どうやって判断するのかなど、今までの生まれてきた道筋について話してくださいと言われることが多いです。網膜色素変性症や黄斑編成、片目しか見えない、色弱などの話はあまり先生方が好まないというか、いいと言われる。
- どういう風に自分たちが生きてきたのか、何を注意して生きてきたのか。よく聞かれるのが、「どうやって食事するのですか」とか、「どうやって服を選ぶのですか」とか、子どもたちはそちらの方を聞いたがるので、そちらを中心に今までやってきました。
- 若林部会長 事前に学校や児童の関心を確認して、それに対してどう答えていくかということ各講師の方は組み立てるとのことでしょうね。
- 小川委員 当日、早めに集まって打合せをする時に、担当の先生方と話をすると、こういった感じの話をさせていただけると助かりますなど要望を伺います。
- 國松委員 視覚障害当事者が話すわけですから、当事者に特化した話をすべきだと思います。それが一番具体的だと思う。聞く側からしたら、その人が視覚障害だと断定してしまう可能性があるもので、時間はあまりとらなくてもいいが、広く視覚障害について話をさせていただいた方がいいと思います。車いすについても、電動のものと、そうでないものと全然違う。聴覚についても

幅広さがあるので、提供する側が少し加えて説明してもらった方がいいのかなと思います。

若林部会長 それぞれの障害の特性について、前段に少しでもいれていただけるとより広い理解ができるようになると思うので、ご検討いただけたらと思います。

木次委員 聴覚について、生まれつき聞こえない場合とだんだん聴覚が落ちてきた人たちと、それがどのくらい聞こえないかというのを知らないと思う。どの程度まで聞こえないのか、それが分かるような道具があるのではないかと考えていました。そうすると、水を出しっぱなしにしているも聞こえない等、聞こえ方によって日々の生活の中でどういう風に困っていることがあるのか、手話だけでなく、いろいろなことを小学生の頃から周りの人たちを見ながら助け合っていけるという視点が生まれる気がするので、どのくらいの音(デシベル)まで聞こえるかによって全然対応が違ってくる。ですから、目安になるような道具があるといいなと考えました。前回見ている、子どもたちは分かってなかった気がしました。

鈴木委員 先程の國松委員の考えを伺ってなるほどと思いつつ、より幅広く障害全体に理解が進むということが大事だと思います。限られた時間の中で、どのように深めていくか。資料1の真ん中に、ふれる、つかむ、深める、まとめるとありますが、深めるのところについて、生徒たちが自分で障害を持つ方の状況を考える、調べる部分だと思うのですが、この中で学んできたことを生徒たちが話し合う場があるのか。調べる、自己学習の結果を生徒たち同士が、話し合う場というのがあれば、そこで自分が見てない部分も聞けるし、考えられると思うのですが、皆さんはどのように把握しておられるのでしょうか。

若林部会長 学びのしかたについて、限られた時間しかないけど、学習の「深める」の段階で広げることができるので上手く使えばどうかというご提案がありましたが、そういったことでご意見をいただければと思います。事業団、社会福祉協議会では一般の方にどういう風にご説明するとかありましたら、参考にご意見いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

事業団 昨年度、参加できなかったのも、直近の状況はわからないのですが、今お話しいただいたことはいくつかあてはまることで、子どもたちは色々な視点で臨んでくると思いますし、学校で事前にどのような状態か、つかめない中で、まずは、事前に子どもたちがどの程度の認識でいて、学校がどういう風に考えているかということをもう少し詳しく知る場があると当日に臨みやすいのかなと思います。当日の打ち合わせだけではなかなか十分に打合せができず、資料でもいいですが、できれば事前の打ち合わせができるといいのかなと思います。

それからもう一つは、回数を重ねますので、同じ子どもたちと接する機会が何回かあると思いますが、初めて会って色々なことをしようとすると、オーバーフローしてしまうので、全体の

話をする場があって、それは事前にやっていただくとか。あるいは、直接何度かやっていく中で素朴な疑問がでてくる。大人だと直接聞けないようなことを聞いてくることに対してきちんと伝えていくことも私たちの仕事だと思いますので、それが個別になる恐れがあるのであれば、個別にならないように事前に全体像をお伝えするとか、逆に、個別の話があれば、次の回には全体に伝えるとかやっていく必要がある。それが、この資料の中でどこまでできるかは、読み取り切れないのですが、複数回数の中でそれをカバーしていく、あるいは、先に準備をしていくか、やったあとでカバーするかということで、全体を組み立てていけたらいいなと思います。

若林部会長 ありがとうございます。

学校との事前の打ち合わせの中で、場合によっては事業団の方々に参加していただくなりして、組み立てていければいいと思います。全体の流れの中で関わってくるとは思います、準備がさらに大変になるが、こういったこともご検討いただくか、学校との事前の打ち合わせの中に加えていただければいいのかなと思いますが、できそうでしょうか。

事務局 学校と調整し、意見等聞いてまいりたいと思います。

若林部会長 事前準備がいろいろ大変でしょうけど、皆さんのご説明の時に、國松委員のご意見にあったように、全体的な話も含めて、ご自身の体験や経験についてお話をしていただくことがいいのではないかと思います。

また、子どもたちが学習する際に、気持ちが集中できるようにしてもらえればいいと思いますし、子どもたちも礼儀などしっかりしてもらえればいいなと思います。

町田委員 道具についてですが、昨年度、紙に書くのがすごく大変だったので、パワーポイント等を使用したいと思っています。

若林部会長 それは大丈夫ですか。

事務局 学校に確認し、調整いたします。

町田委員 パソコンも使用したいのですが準備ができるのでしょうか。

事務局 できると思いますが、学校と調整させていただきます。

若林部会長 各団体でパワーポイントなど使いたいところがあれば、設備の準備等が必要になりますので、事務局に言っていただくのがいいと思います。

若林部会長 では、次にまち歩き学習について、説明をお願いいたします。

事務局 資料3～4の説明(省略)

町田委員 道具についてですが、まち歩きの際に耳栓を準備できればと思っているので、それはお願い

できますでしょうか。

事務局 調整させていただきます。

鯨井委員 資料3-3についてですが、体験、介助、聞き取り、インタビューとありますが、知的障害は体験も解除も難しいし、講師も本人ではありません。なかなか伝えることが難しい障害ではあるのですが、親がこう思っているとか、こういう時にはこういうことが起こりえるというような話を歩くときにさせていただきたいと思います。インタビューと聞き取りの2通りになってしまいます。団体から親として4人参加させていただきたいと思いますので、十分に対応はできるようにさせていただきます。

若林部会長 具体的に、各グループでお考えがありましたら発言をお願いします。

鈴木委員 質問ですが、資料4-1、4-2、4-3とありますが、それはここから選ぶということではなく、この3つのコースを使うということでしょうか。

事務局 今の時点では、この3コースすべてを使う予定となっておりますが、今後学校と調整をしながらコースを減らす可能性もありますが、現時点ではこの3コースを使う予定です。

鈴木委員 この中で資料4-1を見ますと、かなり距離があるように認識できるのですが、その中で信号の有無は確認されていらっしゃるのでしょうか。

事務局 実際に現地を歩かして、だいたい20分弱くらいで一周できるようなコースの設定にしています。実際に体験しながら歩くとさらに時間がかかると思いますので、それでも40分以内で一周できるように設定しています。

鈴木委員 わかりました。

若林部会長 コース中の交代をする地点など、あらかじめきちんと設定されていた方がいいかなと思います。

事務局 チェックポイント等については再度、現地を確認したうえで、事前に決める予定です。

若林部会長 他に、お気づきの点がありましたら、いかがでしょうか。

猪瀬 (Familish) グループ分けのことですが、前は車いすのグループと聴覚の方が一緒のグループになっていたが、車いすと聴覚は障害が違うので、できれば、別々にした方が、説明しやすいと思います。

事務局 昨年度も、そういったご意見をいただきまして、本年度はそれぞれの障害ごとに分けて行う予定となっております。

鯨井委員 コースが2つのグループで同じコースでしたら、できれば逆コースとかあればいいと思います。

事務局 右回りと左回りと検討しております。

若林部会長 最終的に日程が決まるのは1か月前くらいですか。

事務局 なるべく早めに調整させていただきます。1か月前までには決めたいと思います。

若林部会長 それでは、次に新都心の見学についてご説明お願いいたします。

事務局 資料5の説明(省略)

若林部会長 まとめの学習発表会については3月5日で決まっているということです。新都心見学については、今年度はふれあいプラザにお願いするのですよね。

事務局 ふれあいプラザにお願いしております。

若林部会長 昨年度、鈴木委員は参加されたのですか。何か印象とかありますか。

鈴木委員 まち歩き学習で学んだ、自分の地元との違いが明確でありまして、生徒も大変関心をもって、その違いを認識されていたという印象です。

若林部会長 学習発表会は前回と同じやり方でしょうか。

事務局 昨年度開催した、植水小学校と同じ形式を考えております。

若林部会長 私は、なかなか良かったと思っています。子どもたち全員が発表されたということが、すごくいいかなと思いました。

若林部会長 どうでしょうか。他に気が付いたこととか、こうしてもらいたいといったことがありますか。

町田委員 発表の時、障害別にそれぞれ分かれているのですが、自分の学んだ障害について発表する時に、いろんなところにバタバタ動いているので、子どもたちの発表の時には、グループのところに固まって発表できればよかったのではないかと思いました。

若林部会長 発表の仕方、順番等を工夫する必要がありそうですね。

事務局 形式等については、学校と調整させていただきながら、委員のご意見を伝えさせていただきながら進めていきたいと思います。

鈴木委員 学習発表会ですが、大人と子どもがともに学びあうモデル地区事業ですので、植水小では、親御さんも参加できる機会に発表会を開催したということで、大人の参加ができていたと思います。今回の海老沼小でも打合せのなかでそういう機会にさせていただくと大変いいと思います。

國松委員 まちづくりのこういった取り組みで一番期待しているのは、単なるまちづくりではなく、まちづくりは障害者の問題にほとんど接していない人でも一番わかりやすい内容なので、それをなんとか生かした形で深めていただければいいと思います。ぜひお願いしたいと思えます。

(2)その他

若林部会長 何かご意見等ございましたらお願いします。

若林部会長 事務局から連絡はありますか。

事務局 特にありません。

若林部会長 今日の議論をまとめさせていただきますと、事前に学校と各学習の組み立て方についてお話をさせていただくこと、また、全般的なところの話のしかたについて、各団体において、障害についてより幅広い話をさせていただくことと、ご自身の障害のご経験の話をさせていただくことについてお考えいただきたいと思います。事前の準備が大変かと思いますが、実りある事業内容にしていければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

3 閉会

以上